

2022.01.23. なぜ祈りは力強いのか
ヘブル人への手紙 13 章 18 節～23 節

JD ファラグ牧師

おはようございます、日曜日の朝の第二礼拝へようこそ。礼拝は二つあります。第一礼拝は毎週行っている「聖書預言・アップデート」、そしてこの第二礼拝は、聖書を一節ずつ読んでいく説教です。現在、ヘブル人の手紙に入って、ほとんど終わりですが、今日はまだ終われません。ご存知のように、ヘブル人の手紙 13 章は 25 節あります。主は私の心をご存知です。今日、ヘブル人への手紙を終わらせようと努力しましたが、13 章 21 節で止まりました。私は、「ここまでだ、よし。」と。ですから、来週も来てくださいね。私は、牧師として、長年このようなことを経験してきました。そういうわけで、今日の聖書箇所は、18 節から 21 節までになります。ここにいらっしゃる方で、もし可能であればご起立ください。無理であれば、座ったままで結構です。もしよろしければ、御言葉を朗読しますので、ご起立ください。私が読みますので、ついて来てください。ヘブル人へ手紙の著者が聖霊によって、こう書いています。18 節。

ヘブル 13

18 私たちのために祈ってください。私たちは正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したいと思っていますからです。

19 私があなたがたのもとに早く戻れるように、なおいっそう祈ってくださるよう、お願いします。

20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、
21 あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますようにまた、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいますように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。

うわーっ！ 祈りましょう。よろしければご一緒におねがいします。

天の父よ、あなたの御言葉と、今日、私たちに与えられた御言葉の中に示されているこの部分について、心から感謝します。主よ、そのために私たちはここにいるのです。私たちは、あなたが聖霊の静かで小さな御声によって、私たちの人生にお語りになることを聞くためにここにいます。主よ、あなたの御言葉はいのちです。あなたの御言葉は真理です。あなたの御言葉はパンです。あなたの御言葉は水です。人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことば、ここにある、あなたのすべての御言葉によって生きるのです。ですから、主よ祈ります、どうか私たちを導いてください。そして、慰めを必要とする人のために、あなたの慰めを与えてください。励ましを必要としている人のために、励ましてください。力を必要としている人のために、力をお与えください。導きを必要とする人のために、あなたの導きを与えてください。主よ、ヘブル人の手紙の著者に、祈りについて書くことをお示しくださり、感謝します。なぜなら、これは今日の私たちにふさわしい言葉だからです。イエス様、感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください、ありがとうございました。そこで今日は、なぜ祈りがこれほどまでに力を持つのか、祈りこそが、私たちクリスチャンが持つ最も強力なものであるということについて皆さんと一緒に話したいと思います。そのように考えたことはありますか？ 修辭的に質問させてください。あなたが持っている、最も強力なものは何ですか？ 何を思い浮かべますか？ いろいろなことが思い浮かぶかもしれませんが、クリスチャンである、あなたや私が持っている最も強力なものは、祈り、祈りです。私たちはすぐに、「祈りは強力なものだ」と言います。祈りの力の歌を歌います。私たちはそう言い、そう信じて

いますが、本当にそれを、自分の行動としているのでしょうか？ 私たちはそれを、本当に理解しているのでしょうか？ 私は、祈りというものが、最も罪悪感を抱かせるものの一つであることを痛感しています。つまり、私たちの中でどれだけの人が、「私は祈りの男だ、祈りの女だ」と言えるのでしょうか？

「私はいつも祈っています、祈り切りました。」というのを聞いたことがあります。「本当に？」って感じですか。「どんな風に？」なぜなら、自分の人生において、祈り切ったり、祈りすぎることなどないと、知っているからです。実際に、そんなことできるのでしょうか？ 実際に、祈りすぎてしまうことなど、あるのでしょうか？ 本音を言えば、「もっと祈らないといけない」と誰もが思っているでしょう。もっと祈らないといけないですよ？ さあ、正直になりましょう。教会にいるのだから、正直にならなければなりません。祈りに関して私が理解していることを、皆さんにも理解してもらいたと思います。祈りとなると、罪悪感や罪責感を感じがちですが、そんな必要はないのです。実際、祈りは義務ではなく、望みです。もし祈りが、強制的な、「ああ、祈らなければならない」と考えるものだったら、神がどう思われるか、想像できますか？ 神は、「もういい。大丈夫、必要ない、気にしないで」と言われるでしょう。「そんなことになるのなら、やめておけばいいよ。」それは、「祈りたいのです。」となるべきです。強制ではなく、望みです。このことを考えると、私たちはいかに、祈りを複雑にしてきたかがわかります。私たちは祈りをとても複雑にしています。これまでもお話してきましたが、私は何年も前に、祈りの人になりたいと本気で思ったことがあります。「神様、私を祈りの人にしてください。」とさえ祈りました。ちなみに、そんなことを祈ってはいけません。「本当にいいのですか？」と神に言われますから。「本当に祈りの人になりたいのか？ わたしがこれから何をやるか分かっているかい？」「わたしは、あなたを祈りの人にするよ、いいかい？」そんな感じではありませんが、それは深刻な祈りであり、神は深刻に受け止められます。当然のことです。これは何年も前のことで、私はただ、祈りの人になりたいと思っていましたが、どうしたのでしょうか？ 祈りに関する膨大な量の本を買いました。こんなに分厚い本です。E.M.バウンズは、祈りに関する膨大な著作で知られています。素晴らしい祈りの本です。そこで私は、E.M.バウンズの祈りの本を手に入れました。この本を読んでみよう。机の上に置いて、これを見ていると...、とても分厚い本です。「ちょっと時間がかかりそうだな。そろそろ読み始めた方がいいな。」その瞬間、聖霊が、主だけがお出来になる優しい方法で、私の心に語りかけてくださいました。「ねえ、本を読む代わりに、祈って見たらどうだい？ その本を読むのにかかる時間は、どれほどか？ 祈りは、ただわたしに語りかけること、ただわたしに語りかけなさい。ただ、わたしに話さなさい。」ところで、祈りの、この裏には何があるか知っていますか？ 敵です。敵は、クリスチャンに知られたくないことを知っているのです。祈りが決め手になることを知っているのです。敵は、祈りがどれほど強力であるかを知っています。クリスチャンが祈ると、敵にとってはゲームオーバーになります。敵はそれを分かっている、あなたに知られたくないのです。だから、あなたが祈る時間を確保するたびに、騒ぎが始まるのは、そういうわけです。つまり、子どもたちが喧嘩を始めたり、電話が鳴り始めたり、あらゆることが起こり始めるんです。「それは何ですか？」もちろん、敵の仕業ですよ。敵はあなたに祈ってほしくないのです。なぜなら、あなたが祈り、あなたと天の父との間につながりができた瞬間、敵はそこから逃げ出さなければならないことを知っているからです。クリスチャンに祈らさないようにしている限り、敵はそのクリスチャンを捕らえることができるのです。今日は、このことについてお話したいと思います。特に、ヘブル人への手紙の著者が章の終わりに向かってここで書いているように、「なぜなのか」についてお話したいと思います。つまり、私たちは祈りが強力であることを知っていますが、祈

りがどれほど強力であるかを本当に理解しているのでしょうか？ 祈りがなぜそれほど強力なのか、私たちは本当に理解しているのでしょうか？ 興味深いのは、著者がまず彼らに具体的な祈りを求め、その後、彼らのために最も素晴らしい祈りをしていることです。私はこれが好きです。そうあるべきだと思います。そうすることで、私が見つけた4つ以上の理由、あなたはもっと見つけるかもしれませんが、祈りがなぜ、どのようにして、それほど強力なのかについての4つの理由を示されました。第一は18節にあり、「祈りは必要な謙遜をもたらす」というものです。ところで、敵は今、あなたの気をそらそうとしています。あなたに、この二つの点をつなげてほしくないのです。謙虚さと祈りの関係を知られたくないのです。ここで著者は、自分をへりくだらせて祈りを求め、「正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したい」と言っています。これは良い始まり方です。しかし、祈りを求めるためには、なぜ自分が謙虚にならなければいけないのでしょうか？ 知っていますよね？ 誰かに祈ってもらうということは、自分がへりくだる必要があるということです。使徒パウロは、書簡の中で常に祈りを求めています。それは私を確信させ、私を謙虚にさせます。これは使徒パウロの話です。彼はヘブル人の手紙の著者のように祈りを求めるだけでなく、具体的に熱心な祈りを求めました。そして、その際、彼らに祈りを求めた後、必ず彼らのために祈りを捧げるのです。つまり、お互い祈り合うのです。そのためには、まずこの「謙虚さ」という問題に取り組まなければなりません。この謙虚さと、祈りの力との結びつきの重要性は、いくら強調してもし過ぎることはないと思います。祈りのないクリスチャンは高慢なクリスチャンであり、祈りのあるクリスチャンは謙虚なクリスチャンであると言えます。謙虚さと祈りの力の間にあるとても重要な点をつなぎたいと思います。それは箴言11章2節です。この節はよくご存知ですね。

「知恵はへりくだる者とともにある。」

もう一度言わせてください。

「知恵はへりくだる者とともにある。」

こんな風に言ってもいいですか？ 謙虚さは知恵を生むきっかけになる。知恵が欲しいのであれば、まず自分を謙虚にする必要があります。ちなみに知恵は必要ですが、知恵は謙虚さとセットになっているので、...言い方は悪いですが、謙虚さなしに知恵は得られません。では、力はどこから来るのでしょうか？ さて、神の御前での謙虚さは、神からの知恵の始まりであり、それは、神の力ある御手を動かすことになります。さて、次の書ですが、これは毎週言ってますので、飽きないでほしいのですが、ヘブル人への手紙が終わったら、次はヤコブの手紙です。もう一度言いますが、「ヤコブ」です。ヤコブを好きにならないとね。ヤコブを愛さなくてはなりません。ヤコブの手紙は、それを読んだあと、喜んで立ち去れるような書ではありません。読んだ後に「ああ、主よ...！」と打ちひしがれるような書です。つまり、彼は手加減しないのです。ネタバレになりますが、ヤコブの手紙に入ると、次のようなことがわかります。それは、上からの知恵、つまり、謙虚さに対してもたらされる知恵であり、その知恵とは、第一に、一このリストを聞いてくださいー

清いもので、平和で、優しく、協調性があり、あわれみと良い実に満ち、偏見がなく、偽善もなく、義の実を結ぶものです。(ヤコブ3:17)

これはかなりのリストですね。聖霊の実のリストとよく似ていますね。(ガラテヤ5:22, 23参照) その通りだからです。さて、ここに繋がりがあがるのです。ちょっと待ってください。もし、それが上からの知恵であり、自分を謙虚にすることに対してもたらされる神の知恵であるならば、その知恵には聖霊

の力（ギリシャ語ではデュナミス）がついてくるように思えるのです。というのは、それは聖霊の実だからです。それが知恵をもたらすのです。例を挙げて説明しますので、一緒に考えてみてください。これまでの人生で何度、祈り、自分がへりくだり、祈りを頼んだことがあるでしょうか。その結果、神の力ある御手に力強く、また紛れもない方法で動かされ、後から振り返ってみて、「もっと早くやっておけばよかった」と後悔するようなことが、あったのではないのでしょうか。そして、ほとんど聖なる恐怖と主への畏れがあります。ちなみに、これは知恵とは別のものです。謙虚になって祈っていなかったら、この強大で力強い、奇跡的ともいえる祈りの答えを受け取ることはなかっただろう、という畏敬の念と恐れです。これも、ヤコブの手紙に入ったときに見ることができます。

「自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。」つまり、私が祈らなければ、そのようなことは起こらなかったのです。何が私たちを、祈りから遠ざけるのでしょうか？ 私たちは「忙しくて祈れません。」と言いますが、それに対してある人はこう答えました。「あなたは、祈らないことに忙しい。」また、昔、神に用いられた人たちが、言ったことを聞いても助けにはならないでしょうが、今は天に召されていますが、誰だか忘れまして、でなければ名前を言ったでしょう。もしかしたら、知っている人もいるかもしれませんが、この偉大な神の人、祈りの人の一人である彼は、ある時、こう言ったと言われています。「私は忙しすぎる、今日は、やるべきことがありすぎる。しかし、最初の数時間は、祈った方がいい。」えっ、待って！？ どうやって？ 時間が足りない。彼は、私たちの誰もが知っておくべきことを知っていました。非常に決まり文句ですが、「祈りが物事を変える」ということです。私はこう考えています。あなたは先ず第一に時間をかけて祈ります。神は、いつもそうされるように、その祈りを聞き、神は、いつもそうされるように、祈りに答えてくださいます。ただ、私たちはその答えが気に入らないかもしれません、特に「ノー」の場合は。「イエス」は好きですが、「ノー」は好きではありません。本当に嫌なのは、「待て」と言われた時ですね。待つのは嫌いです。しかし待たなければなりません。まず主に祈り、主の前にすべてをさらけ出すのです。「主よ、あなたの助けがなければ、私は今日の一日を生き抜くことはできません。」ああ、主が駆けつけてくださいます。あなたは自分のスケジュールを見て「おっと...」、と思うでしょう。時間を割いて祈ったからこそ...それは、祈りの長さではなく祈りの強さなのです。ちなみに、それは説教には適用されません、念のため。一笑一主にあって正しい者の、熱心で効果的な祈りこそが、多くのことを成し遂げます。ですから、効果的な祈りをしましょう。ところで、繰り返になりますが、長く祈る必要はありません。むしろ、それが祈りであると思われてしまっていることもあります。私が何を言いたいかわかりますか？ 決まりきった形式のようなものです。いいですか、祈りとは神に語りかけることであり時には、神に泣き叫ぶことでもあります。時に、最高で最も力強い祈りは、言葉を使わず、涙だけのものです。ある人はそれを「涙の祈り」と呼びましたが、とても力強い祈り、主に向かって泣き叫ぶような祈りです。あなたは主にすべてを委ね、どうしようもない日を迎えたとき、主は準備万端で待っていてくださいます。あなたは主のもとに来て、自分のやり方、自分の一日を主に委ねるのです。主は、それが紛れもなく主であるように、あなたが行うのに10時間、11時間、12時間かかるであろうことを、神は5時間で行われます。12マイナス5は7。7時間祈れます。5時間しかかかりませんので。神にはそれが可能であり、神はそれを望んでおられるのです。そしてまた、前述の「なぜ私たちは祈らないのか？」という疑問にお答えします。まあ、言い訳をするわけですから。いや、それこそが言い訳なのです。考えてみてください、大切なことならば、そのための時間を作るはずですから。私は今、とても罪を示されているのですが… つまり、自分の生活の中で、優先順位が高ければ、そのための時間

を作りますよね。祈りが本当に優先されるのであれば、そのための時間を作ります。忙しくて祈れないのではなく、祈らないことに、忙しいのです。ところで、祈りも…次に進む前に、最後に一つだけ、とても重要なことですので、聞いてください。皆さんにお伝えしたいのは、私の祈りの生活を変えるために長い年月がかかったことです。つまり、私が唯一後悔しているのは、もっと早くこうしなかったことです。私にとって、祈りはいつも正式な儀式でした。そして、より真剣な祈りは、ひれ伏すか、少なくとも膝をついて行うものだという考えを持っていました。もし立って祈るなら、神はその祈りを、膝をついたり、顔を伏せたりしているときの祈りほどには、聞いてくださらないのではないかと。私の人生に一時、…自慢じゃありませんけれど、ひざまずいて祈っていた時期がありました。しかし、年を重ねるにつれ、それは容易なことではなくなりました。「主よ、終わったら立ち上がるのを助けてください。」と祈るような気持ちになります。しかし、それは体の姿勢ではなく、心の姿勢なのです。人間は外見を見ますが、神は心を見られます。祈りは、心からのものでなければなりません。あなたの心から、主の心へ。あなたの祈りが心からのものであるとき、主は、あなたが想像もしなかったような方法で、御手を働かされます。それほど、祈りは力強いものなのです。さて、これで19節の2つ目にたどり着きました。

「祈りはすべての障害を取り除くことが出来る」これは大きな意味を持ちます。どれもそうですが、ここで指摘しておきたいことがあります。一読しただけでは簡単に見過ごされてしまっていますが、この特定の節についてのいくつかの考えがあります。その一つ目は、祈りが熱心であり、かつ具体的な、特定の祈りであるときの、祈りの力に関係しています。使徒パウロが書いた書簡や、このヘブル人への手紙を読むと、祈りに関しては、具体的であるという共通点があることに気づきます。祈りは、一般的であってははいけません。祈りの内容を具体的にしてください。なぜそれが重要なのでしょうか？ 神がその祈りに答えられるとき、祈りが具体的であれば、間違いがないからです。それはとても具体的な祈りで、神は私が祈った通りに具体的に答えてくださいました。神にしかおできにならないことです。もしそれが一般的なものであれば、常に疑問や疑念がつきまといまいます。

「うーん、まあ、そうだったかもしれない、主よ、ありがとうございます。」具体的に、熱心に、効果的に祈るとき、その祈りは、神に答えられます。さて、この19節の文脈ではどのように適用されるのでしょうか？ 著者は具体的な祈りを求めています。それどころか、「これは緊急だよ、君たち」と駆り立てています。私があなたがたのもとに戻れるようにという、具体的な祈りです。さらに具体的には、戻れるだけでなく、早く、です。とても具体的ですね。具体的には、私があなただけのもとに戻ってくることを、そしてそれが早く、すぐに行われることです。いやあ、興味深いですね。それを阻む障害物があったと思われれます。さらには、この節は、その障害を取り除くために最も効果的なものが祈りであることを、著者は知っていたと思われれます。あれこれ試してみるのもいいですが、人生には何かしらの障害があり、もしかしたら今、何かがいまいち浮かんでいないかもしれません。それは聖霊です。私たちの人生には、いくつかの障害があります。良ければ、それを妨害と呼びましょう。これらの障害物は、私たちのクリスチャン生活の中で障害となるもので、それを取り除くには、祈りしかありません。誰が知っていますか？ 神が知っておられます。神は私たちに、知ってほしいと願っておられます。私はいつも……そうではないんだけど……本当は違いますが、そうすると、また非常に罪を示されますが、このような節を逆にしてみたりします。つまり、祈らなかったために私の人生に障害として残ったものは何かということです。それは、あなたをすぐに、それらの事を振り返られますよね。そして、あなたは気づくのです。それは罪責感ではなく、必要な罪の示しです。私が祈っていれば、その障害は取り除かれていただろうということに気づくので

す。興味深いことに、著者は、自分が彼らの元に戻れるように、彼らに懇願し、願い、具体的な祈りを求めています。うーん。うーんと思わせるものですね。このように考えてみてください。あなたの人生において、祈りを必要とする障害があり、それがこれまで、修復や、誰かとの和解から遠ざけていたのでは？ この障害が邪魔をしています。何が、その障害を取り除けられるのか？ その障害物を取り除くに十分な力があるのは、祈りだけです。他は、何の力もありません。さて、3つ目のポイントは20節にあります。

「祈りは心の平安を保つ」この言葉は皆さんも聞いたことがあると思います。賛美歌や歌にもなっていますが、次のようなものです。「血には力がある。」聞いたこともあるし、言ったこともあるし、歌ったこともあるでしょう。血には力がある。20節で書かれているのは、まさにこのことです。彼がこう言っていることに注目してください。

「永遠の契約の”血”による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された”平和の神”が、それが力です。イエスを復活させ、死からよみがえらせることができるほどの力、それが力です。”永遠の契約の血による”という言葉が含まれていることと、その詳細に注目してください。実際、悲しいことですが、この件についてはあまり言いたくありませんが、こういうこともあります。今の時代、この世界で、イエス・キリストの血について言及している教会を見つけるのは難しいでしょう。実際、少し前の話ですが、賛美歌や礼拝の歌の言葉を見直している教会があると聞きました。「血なまぐさいのは勘弁してほしいです。」いいえ、血なまぐさくなる必要があります。だから、これらの代用歌、言葉を、歌わないように、聞かないように、ということです。確実に、牧師は血に関する一節を教えようとはしません。

「血？うわ～！」いいえ、イエスの血は新約の血であり、血には力があるので、その血についての教えとたくさんの賛美と賛美歌が必要なのです。あなたはまた、間違いなくイエスの血を聞いたり、自分で祈ったりしたことがあるでしょう、「私はイエスの血を宣言します。」と。それは良い祈りです。本当に良い祈りです。ヘブル人への手紙の著者は、ここでそう言っているのです。それは血によるもので、血に宿る力、イエスの血は強力です。それは、私たちが天国にアクセスし、入ることができる根拠であり、血を流すことなしに罪の赦し、罪の赦しはないからです。これがイエスの血の力です。「わかりました、牧師さん、平安のためにどうすればいいのですか？」ああ、聞いてくれて嬉しいです。聞いてくれましたね？答えますよ。この血の力は、神との平和をもたらし、続いて、神の平安をもたらします。キリストの血は…私たちは神と敵対しています。そしてイエスは、私たちの代わりに血を流してください、私たちは神と敵対する代わりに、今は神との平和を得ています。そして、神との平和を手に入れたとき、常に続くのは神の平安です。それだけの力があるということです。最も良い例は、ピリピ人への手紙4章にあると思います。よくご存知ですよ。使徒パウロは基本的にこう言っております。要約して、言い換えてみると、

「何事も心配せず、あらゆることを神に感謝し、すべてのことを祈りなさい。そうすれば、平安の神からの神の平安が…」言葉遊びではありません。「…平安の神からの神の平安が、あなたの心と思いを、キリスト・イエスにあって守ってください。」

主は人知を超え、迂回し、超越するその平安を与えてくださいます。このようになります。あなたの世界、あなたの人生のすべてがあなたの周りで崩壊していて、それが悪化しています。そして、祈るとさらに悪化します。あなたは「祈るのをやめれば、これ以上悪くならないかもしれない」と思うのです。そういうわけにはいきません。しかし、すべてがうまくいかず、すべてが崩壊しているのです。全てが崩壊しているのに…、あなたには平安があるのです。そして、周りからちょっと変な目で見られています。「どうし

ちゃったんですか？ 自分の人生に何が起きているのか、よく考えてみてください。パニックにならないのですか？」いいえ、私には平安の神からの平安があります。「そのことを少し知りたいですね。」ええ、それは、私を神と和解させ、神との間に平和をもたらしたイエスの血の力に関係しており、それによって、私は神の平安を得ることができるのです。そしてイエスは、「わたしが与える平安は、世が与えるようなものではない」と仰られました。(ヨハネ 14:27 参照)

世が与える平安を見てください.....それは基本的にこのような平安であり、良い取引ではありません。

「大丈夫、すべてがうまくいっているときは、平安でいられる。」私の場合、自分のことを話しますが、1日のうちで実際に物事が上手くいくのは、せいぜい1分半くらいでしょうか.....。それが私の唯一の平安な時間なのです。それが世が与える平安なのです。イエスは、わたしの与える平安は、世が与えるようなものではないと仰られました。それは、祈りの中で求めれば、手にすることの出来る平安です。そして平安は、「ねえ、周りは全く混乱していて混沌としていますが、しかし、あなたは岩の上に、固い岩の上にあります。」と語ります。過去に共有しましたが、これは適切かもしれないので、ほんの少しだけ。何年も前のはるか昔、遠く離れた土地で、私たちは本土にいた時のことです。オレゴン州のキャノンビーチに行くこともありました。そこには、キリスト教の会議場があったのです。あちこちから講演者が来ていました。そして、私たちは車で出かけました。ワシントン州に住んでいました。オレゴン州のキャノンビーチに車で行って、週末を過ごしたり、もっと長く過ごすこともありました。このクリスチャン・カンファレンス・センターの敷地内のキャビンに泊まることになるのです。キャノンビーチの海岸には、「ヘイスタック・ロック」と呼ばれる岩がありました。つまり、最高にかっこいいんです。一番とは言えないけど、かっこいいんです。あなたはここの浜辺にいて、ヘイスタックロックを見えています。そして、時にはそのような波が、この岩にぶつかってくるような潮の満ち引きがあるのです。岩は動きません。実際、よく見ると、その岩の上には、下の波が岩にぶつかっても気づかない鳥たちがいるのです。鳥たちがしていることは、ただ創造主を褒め称え、歌い、創造主を賛美し、ただ創造主に栄光をもたらしているのです。これについては次の話になります。嵐でも波でも、つまり何があっても、私は岩の上にいるのです。私は岩の上で平安を保っています。その岩はキリストなのです。それがイエス・キリストの血の力であり、それを求めるのです。最後です、21節。

「祈りは、神の御心に適うように私たちを整える。」この節には、実はかなり多くのことが書かれています。残り少ない時間ですが、最善を尽くしたいと思います。しかし、ここで著者が言っているのは、

「祈りは私たちを神のみこころ、神の働きのために整えるものであり、すべては神の栄光のためである」ということです。また、典型的な話だと思われるかもしれませんが、「神のみこころ、神の御言葉、神の栄光...」しかし、祈りが私たちを整えます。祈りはとても強力で、神の栄光のために神のみこころと神の働きを行うために必要なすべてのもの、いわばすべての装備を与えてくれます。祈りは、私たちが主のみこころを行うために私たちを整え、主に喜ばれることが出来るように、主は私たちのうちに働いてくださいます。私たちの中に、神を喜ばせたくないと思う人はいないと思います。想像できますか？ ええ、朝、起きたら、神に不快感を与えるようなクリスチャン生活を送るにはどうしたらいいかを考えます。いいえ、私たちは神を喜ばせたい、神のみこころに添いたいのです。それが1番のことですね。牧師として私が受ける質問の第一位は、「どうしたら神のみこころを知ることができますか？」ああ、実際に私は、「テーブルの4本足」といういわばテンプレートを使っています。まず第一に、何よりも、神の御言葉に適合していなければなりません。そこから始めます。そこから先は、神の平安です。平安があり、それは

神の御言葉に沿っていて、神の御心であるということです。しかし、その後、あなたの霊が神の御霊と一緒に証しするのです。そして、超自然的な平安を得ることができます。逆の場合、これが、主からではない、または”待ちなさい”という場合...、なぜなら、神は”待ちなさい”と、祈りに答えてくださることもあるからです。一時停止、制止があり、「何かがまだおかしい」「まだ平安が得られない」となる時、それは聖霊です。それを否定してはいけません。神の平安、神の御言葉、そして、3番目に神の摂理です。

神の摂理とはなんですか？ ええ、私たちはこう言いたいのです。「神は、ある扉を開いて別の扉を閉め、私たちの歩みを導き、私たちの人生の状況を整え、神のみこころが何であるかを知るために、歩みを演出して下さる。」そして、私たち自身が神のみこころに沿いたいと思う以上に、神は私たちを御心に沿わせたいと願っておられることを心に留めておいてください。天におられる神が、私たちとチェスをしようとしているなんて、決して想像しないでください。神は常に勝つでしょう、しかし、あなたは想像できますか？「おやおや、ガブリエル、ミカエル、降りてきなさい。JDはわたしのみこころをほぼ理解した。バーを動かして、早くなんとかしなさい。」違います！神は…、私はそれを見て、このように言うのが好きなのです。神は私のクリスチャン生活の中で、私が神のみこころに適うような環境を整えてくださいます。神が私たちの不従順の当事者になるとは決して思わないでください。神はお出来になりません。それは不可能です。ですから、神は私たちに何かをするように、あるいはある方向に進むように、命令したり、戒めたり、指示したりされますが、神はいつも、それと状況をセットにして、私たちがみこころに適うように導いてくださるのです。つまり、神の御言葉、神の平安、神の摂理、神の確証、これが4番目です。それは.....神が何かを確証するために、神にしかお出来にならない方法があることを知っていますか？そして、それは神からの確証だと分かるのです。そして、時には確証のために祈ることもあります。「主よ、これはあなたの御言葉に沿っていることです。私にはあなたの平安があります。あなたが状況を、摂理的に整えてくださっています。ただ、確証が必要なのです。」そうすると、あら不思議、確証が来るのです。そういうことなのです。そして、それが主であることがわかります。つまり、紛れもなく主の方法で、それをして下さいます。なぜですか？なぜなら、最終的には、主がすべての栄光を得られるからです。主は必ず、主だけがすべての栄光を得られるように、それを行われます。

肉なる者は誰も、主の御前で栄光を得ることはありません。(Iコリント1:29参照)

旧約聖書の祭司たちが、ささげ物を祭壇に奉納するときに、祭壇まで持っていくことを思い浮かべてください。彼らは羊毛ではなく、綿を身につけ、すべての肉を覆わなければなりません。彼らが祭壇に足を踏み入れたとき、肉が見えてはならなかったからです。確かに、どんな肉なる者も、主の御前では栄光を受けられません。まとめのために十分な時間をとって、最後にヨハネの福音書の一節を紹介したいと思います。しかし、ここからの収穫は、このようにまとめることができるのではないのでしょうか。

「祈りは、神のみこころ、神の働き、神の栄光のために、私たちを整える。」

ヨハネの福音書第14章：これは私の祈りの生活を変えたと言っても過言ではありません。

しかし、この2つの節、ヨハネの福音書14章13節と14節が私のすべてを変えてしまいました。そして、決して振り返りませんでした。これはイエスの言葉です。イエスの仰ることを聞いてください。

「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。…」

本当に何でも聞いてくれるのですか？「はい。」おお～！「それは…」おっ、ここで修飾語が出てきました。

「...父が子によって栄光をお受けになるためです。」(ヨハネ14:13)

ついて来てくださいね。「あなたがたが、何かを（何でも）わたしに求めるなら…」何でも？

「はい、わたしの名によって何かを（何でも）わたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」(ヨハネ14:14)

待ってください、ちゃんと理解できているかどうか確認させてください。あなたが言っているのは…、何でも求めてもいいということですか？ ーはい。

そして、もしそれがあなたに栄光をもたらし、あなたのご性質であり、あなたの御心であるあなたの御名においてであるなら？ では、私があるあなたに何かを求め、あなたが私の願いを聞いてくださる前提条件は、それがあなたのみこころであり、あなたの栄光のためであることの2つだけなのですね。ーそうです！わあ！私は、あなたに何でも求められるのですね。お付き合いください。今、まさにそれを追体験しているようです。それくらい、力強いのです。さて、ここで私の祈りのリストを再確認してみましょう。

「ああ、なるほどね。その祈りを変えようと思います。」「祈りは祈る人を変える」という言葉を聞いたことがあるかもしれません。分かりましたか？ 分かったと言ってください。祈りは物事を変えると言いますが、祈りは私たちを変えるのです。だから、自分の祈りのリストを見て、「ちょっと待てよ、ああ、これは神の栄光のためじゃないな」と思ったのです。それは私の栄光のためでした。どうりで！ そして、ヤコブはそれを真っ向から指摘します。

「求めても受けられないのは、なぜだかわかりますか？それは神に栄光をもたらすものではなく、あなたに栄光をもたらすものだからです。」神はその祈りに答えようとはなさいません。それは、あなたが自分の楽しみに使うため、あなたの栄光のためなのです。それは神のみこころではないし、きっと神の栄光のためでもないでしょう。しかし、もう一度、裏返してみましょう。だから、私たちが祈りと呼んでいるこのものは、とても強力で、私は”何でも求めることができる”のです。キーワード”何でも”、”求める””何でも”の意味はわかりますよね？ 原語で調べてみてください。何でも、どんなことでも、という意味です。そして、それが神のみこころであり、神の栄光のためであるならば、私はそれを得ると、確信を持って約束されているのです。

「わたしがそれをしてあげます。わたしがそれをします。」「してくださるのですか？」

「ええ、もしそれがわたしに栄光をもたらし、わたしのみこころ、わたしの御名、わたしの性質に沿うものなら、わたしはそれをあなたに与えます。なぜそうしないでいれましょう？」

もうひとつ、ヤコブの話をしてしましましょう。すでにヤコブの手紙を教えています、まだそこには至ってません。あらゆる良い贈り物と完全なる贈り物は御父から来るのであり、変動もなく、移り変わる影もありません。主がその御心を変えられることはありません。(ヤコブ1:17参照)

良いものなら、それは神です。そして、このままついてきてください。私たちが祈ると、神は

「うん、あなたはそれを望まないはずだ」とおっしゃることがあります。「いいえ、私はそれを望んでいるのです、神よ！」このようなことを祈るのです。「いいえ、あなたはわたしがそれを与えることを望まないはずです。なぜなら、それは良いことではないから。そして、それは確かにわたしに栄光をもたらさないだろう。」なぜなら、すべての良い完全な贈り物は天の父、光の父から来るからです。それが良いものであり、神からのもので、神に栄光をもたらし、神のみこころであるならば…、それは与えられるのです。私たちが地上の墮落した、罪深い、恐ろしい親として、考えてみてください。恐ろしいと言ってみました、自分自身のことです。私たちは、自分の子どもにどのように良い贈り物をあげたいですか？

イエスは、求める者に聖霊を与えるという文脈で、まさにそのことをおっしゃっているのです。あなた方

は地上の親として、自分の子どもたちに良い贈り物をする方法を知っています。つまり、子どもが魚が欲しいと言ってきても、蛇をあげようとは思わないでしょう。もしそうなら、まあ、ひとつには悔い改める必要がありますが…、しかし、あなたは魚を与え、石を与えるのではなく、頼まれたらパンを与えるでしょう。それならなおさら、あなたの天の御父は、求める者にどれほど良い贈り物を与え、聖霊を与えてくださるでしょうか。

ここで再び…、最後になりましたが、これで締めくくります。私は、私自身を含める私たち全員に、特に最後に、このような考えを残したいと思います。そして、私は再び自分自身の為に話しています。私は誰のことも見ていませんよ。なぜなら、誰かに「この人は私のことを言っている！」と思われたくないからです。私は自分のことを言っています。求めなかったがために、持っていないものがどれだけあるでしょうか。何にでも該当するものはたくさんありますね。私は思うのです…神のみこころに沿って、神の栄光のために求めていたら、どうなっていたのだろうか。身につまされる思いがしますよね？繰り返しになりますが、罪を責めるためではありません。罪責感是我们を主から遠ざけるので、罪責感があるときはいつもそれが主でないことがわかります。一方、聖霊による罪の示しは私たちを主に近づけてくれるのです。

ヤコブは、「もしあなたが主に近づくな、主もあなたに近づいてくださる」と言っています。(ヤコブ4:8参照)

だから、繰り返しになりますが、これは罪を責めるためではなく、むしろ罪を示すためなのです。

さて、最後の1つと言いましたが、これが最後の、最後の1つです。考えてみてください。私たちが祈っている相手が誰なのか知っていますか？ それは、天と地と海とそこにあるすべてのものを創造された神であり、私たちは神に自由にアクセスして何でも求めることができます。もし、電話を取り、誰かに電話をかけようとしても、繋がる保証はないですよ。実際、留守電になるかもしれません。ちなみに私はそれが嫌いです。しかし、いつでも、どんなことでも、私は神に相談できるのです。私はただ…、私に約束されたのは…、そしてちなみに、神はそれもお出来になるのです。神は全能です。神なのです。主にはそれがお出来になるのです。主にお出来にならないことはありません。

「ああ、でも、牧師さん、失礼ですが、私の状況ではありえません。」ああ、それはいい、もっといいです。実は、神は不可能を可能にする神であられるだけでなく、不可能であるがゆえにお出来にならないことが一つだけあるのです。そしてそれは、あなたにとってまだ可能な時です。なぜなら、あなたはまだ自分でやろうといて、あなたにとって可能であるなら、神は手出しできないのです。そして、自分の限界に来たときに初めて、手を挙げて、「神よ、それは不可能です …！」神はこんな感じでられます。「ああ、わたしは不可能を可能にする神です。わたしがそれをしても良いですか？」おそらく、3ステッププログラムを聞いたことがあると思います。軽視するつもりはありませんが、実際には3つしかないんですよ。

ステップ1：神がお出来になることを知る。

ステップ2：自分が出来ないことを知る。

ステップ3：神に任せる。

それだけです。神にしてください。不可能な状況ですか？ つまり、主がすべての栄光を得るのです。たとえあなたがそれを望んだとしても、あなたの手柄にすることはできないからです。やってみることは出来ますが、笑われてしまうでしょう。「あなたは自分で手柄を立てようとしていますね。いいえ、あれ

は神です。」「あれは神です。主がなさったことです。主がすべての栄光を得られます。」お立ちください。賛美チームは出て来ててください。ここから先は、何らかの形で聖霊がなさって下さることを願います。私は自分のベストを尽くしました。少なくとも私はそう願っています。祈りはとても強力で、とても力強いのです。

天の父よ、あなたに心から感謝します。祈りに感謝します。私たちが祈りと呼んでいるこのものは、あなたに何でも求めるためにあなたにアクセスできるものです。

そして、もし私たちが何かを求めるなら、その祈りはとても強力で、もしそれがあなたのみこころに沿い、あなたの栄光のためなら、あなたはそれを行うというあなたからの約束です。主よ、今日ここにいる人、オンラインで見ている人のために祈ります。祈りの力によってのみ取り除ける障害、祈りの力によってのみ回復できる人間関係、祈りの力によってのみ変えられる不可能な状況、祈りの力によってのみ得られる超自然的な平安があるのです。主よ、祈りの力を心から感謝します、イエスの御名において、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7